

東日本大震災津波からの復旧・復興と伝承の取組

1. はじめに

今般の令和6年能登半島地震で犠牲になられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。

岩手県は、東日本大震災津波の発災以降、このたび被災された自治体を含め、全国や海外から多くの御支援をいただき、国内外との絆に支えられてきました。大震災津波の教訓を生かし、今後も被災地の支援を行ってまいります。

2. 津波防災施設の整備

13年前の平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により、岩手県では、沿岸部を中心に多くの尊い命が奪われました。

大震災津波からの復興に当たり、岩手県では、「いのちを守り海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指す姿とし、県民一丸となって取り組んできました。

防潮堤等の津波防災施設については、計画した142箇所のうち141箇所の整備が完了しました。今後は、建設中の二級河川閉伊川水門の早期完成を目指します。

また、この津波において、水門や陸閘の閉鎖作業に関わった多くの消防団員が犠牲となった事実を踏まえ、操作員の安全を確保するとともに、津波から県民の生命と財産を守るため、衛星回線を活用して門扉の閉鎖などを自動で行う「水門・陸閘自動閉鎖システム」の整備を進めています。

当システムは、国が発表する津波注意報等（J-アラート）の受信を契機に、県内の各水門や陸閘に閉鎖の一斉命令を送信し、門扉の閉鎖や閉

鎖にかかる安全警報等を自動で開始するものです。平成29年7月から一部で運用を開始し、これまでに213基の水門や陸閘で供用しています。

3. 道路ネットワークの構築と効果

災害に強い道路ネットワークを構築するため、三陸沿岸の縦軸及び内陸部と沿岸部を結ぶ横軸となる高規格道路が、「復興道路」としてかつてないスピードで整備されました。令和2年度までに横軸の東北横断自動車道釜石秋田線及び宮古盛岡横断道路が、令和3年12月に縦軸の三陸沿岸道路がそれぞれ全線開通し、大震災津波から10年余りで県内の復興道路359kmが完成したことに加え、令和4年7月には復興関連道路等として岩手県が整備を進めてきた93箇所が全て完成しました。

復興道路等の全線開通により、移動時間の短縮や災害に強い道路の確保、渋滞の解消等の効果が地域経済に波及していくことが期待されます。



復興道路の完成による所要時間の短縮効果



岩手県知事 **たつそたくや**
達 増 拓 也

一例として、昨年8月、日本に寄港する外国船社クルーズ船として最大級の「MSCベリッシマ」が宮古港に寄港した際、復興道路等の開通による移動時間の短縮により、「盛岡さんさ踊り」を見学するオプションツアーが実施されるなど、これまで以上に岩手の魅力を満喫できます。

4. 未来のための伝承・発信

岩手県では、亡くなられた多くの尊い命に追悼の意を表し、大震災津波の教訓を伝承するとともに、これまでの復興に向けた歩みの中で得られた多くの絆を大切に、一人ひとりの大切な人に想いを寄せ、ふるさと岩手を築いていくことを誓い、3月11日を「東日本大震災津波を語り継ぐ日」とする条例を制定しました。

陸前高田市の東日本大震災津波伝承館（愛称：いわてTSUNAMI（つなみ）メモリアル）は、令和元年9月に開館し、令和5年12月には来館者数が90万人に達しました。今後も、日本を代表する震災津波学習拠点として、先人の英知に学び、大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会と一緒に実現することを目指します。そして、大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

また、平成29年3月に公開した「いわて震災津波アーカイブ～希望～」の防災・教育等での活用促進や、震災ガイドの交流促進などにより、防災・震災伝承の担い手を育成していきます。

このような取組は、大震災津波を契機とした津波防災に限ったものではありません。岩手県では、小学校などで津波防災に関する出前講座を開催し、整備された水門や防潮堤を学びの場として提供す

るなど、防災意識の向上や避難行動の重要性を伝える取組を進めてきました。今後も、次世代への伝承の取組を継続していきます。



津波防災出前講座の様子（令和5年5月、久慈市立久慈湊小学校5年生）

5. おわりに

岩手県では、被災者一人ひとりに寄り添いながら、「誰一人取り残さない」という理念の下、三陸のビルド・バック・ベター（よりよい復興）を進めてきました。ハード面での復旧・復興事業を概ね完了することができたのも、これまでの間、復旧・復興事業を担ってくださった建設企業の皆様や、他の自治体からの多くの応援職員の御尽力と、県内外の皆様からの温かい御支援、御協力のおかげです。あらためて感謝申し上げます。

本年8月には、岩手県において一般社団法人全日本建設技術協会の第704回建設技術講習会を開催いたします。現場研修では、復興道路として整備された宮古盛岡横断道路を経て宮古市に向かい、完成すれば国内最大級の津波対策水門となる、延長164.4mの閉伊川水門の建設現場等を御覧いただく予定です。多くの皆様のお越しをお待ちしております。